

日本川崎病研究センターニュースレター

(No. 52) 2026.8.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

ご挨拶

今田義夫

今年もそろそろ梅雨も明けそうです。皆様には当センターの活動にご理解とご支援を頂きお礼申し上げます。

川崎先生により当センターの前身である川崎病情報研究センターが 1990 年に設立され、更に 1999 年 9 月 7 日には、NPO として当センターが誕生いたしました。川崎先生は、当センターニュースレターの第 1 号に、「当センター設立の最も重要な目的は本症の病因を明らかにして、診断治療に役立て、最終的には予防法を確立し、子どもたちを川崎病から守ることにある」と書かれています。更に、川崎先生はこの中で、病因について、川崎病の疫学、臨床像から何らかの感染因子が本症発症の引き金として、重要な役割を演じていると指摘し、これらの研究者に最大限の援助を行いたいと述べられています。しかし、残念ながら、当センターはもちろん、国内、国外の多くの施設や研究者の努力にも拘らず、その感染因子は確認されておらず、川崎病の原因究明には至っていないのは周知のごとくであります。

当センターでは先に述べた川崎先生の設立の趣旨を最大限尊重し、原因究明に結び付くであろう研究に、委託研究として、本症の原因究明に関連した研究のサポートを実施しており、更に、多くの研究の応募を期待しています。

我々は、改めて、川崎先生の本症病因の解明を目指した設立の意義を再認識して、原点に立ち返り、更に、前を向いて歩みを進めなければならないと考えます。これは当研究センターに課せられた責務でもあると考えています。是非、多くの方々のサポートを引き続きお願いしたいと思います。

さて、当センターの主たる行事の一つに「勉強会」があります。例年 1 月に行われており、「親の会」をはじめ、多くの方々のご協力を頂き好評を得ています。この場を借りて、お礼を申し上げたいと存じます。今回も会場（エッサム神田を予定）と Web とのハイブリッド開催が 2027 年 1 月 16 日（土）に予定されています。

前回のニュースレターでもご紹介しましたが、本年度の第 46 回日本川崎病学術総会が 10 月 2 日～3 日に千葉市文化センターで（千葉大学、濱田洋通会長）、又、第 15 回国際川崎病シンポジウムが 2027 年 2 月 15 日～18 日に（独協大学埼玉医療センター小児科松原知代会長、千葉大学医学部公衆衛生尾内善広会長）幕張メッセで開催されます。多くの方々のご参加をお待ちしています。

（日本川崎病研究センター理事長）

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

川崎先生、重松先生の思い出

中村好一

「川崎先生、重松先生の思い出を自分の視点で書くように」という今田理事長のご下命に、「待ってました！」とばかりに筆を執る（キーボードに向かう）のもいかなものかとは思いますが、両先生との出会いは 40 年以上前。書くことには困らない。しばし、お付き合い願いたい。

川崎先生との出会いは、私が自治医科大学の 4 年生の時であった（「出会い」といっても、こちらは大勢の中の一人だが）。大学で当時、公衆衛生学の教授であった柳川洋先生が「川崎病」の特別シンポジウムを企画され、川崎先生の「川崎病概説」、柳川先生の「川崎病の疫学」、そして柳澤正義先生（当時は自治医大小児科学教室の助教授、教授は鴨下重彦先生）の「川崎病の心障害」

（タイトルは正確ではなく、このようなもの、程度でお読みください）であった。当時、4 年生は午前中は病棟実習、午後は臨床講義だったが、午前中の実習は「体を運んでなんぼ」の世界なので仕方なく参加し、昼飯を食べて寮に帰って寝る、といった生活で、「何かある」日だけ、午後も出ていた。この日も「何かある日」で、「川崎先生を見に行こう」という不純な動機で、普段は寄りつかない講堂に足を運んだ。講演の後の質疑応答の際に、生意気にも川崎先生に「原因はどのようにお考えですか」と直球の質問を投げた。

大学を卒業して、当時、白金台にあった国立公衆衛生院（現在の和光にある国立医療科学学院）に進んだ。結構暇なので、自治医大の公衆衛生学教室の方が本拠地のようにうろうろしていた。ある日の夕方、柳川

先生が厚生省（当時）の委員会から戻ってきて、感染症サーベイランスのデータをごっそりと持って帰られた。「これ（感染症）と川崎病の発生動向を比較検討する」という課題は、最初別の先生に振られたが、うまく逃げたの私に回ってきた。このときにこの先生が逃げなければ、私の人生は間違いなく違ったものとなっていたはずである。20 疾患、105 週分のデータを手入力し、週別発生状況を川崎病と比較し、「川崎病の発生状況と同一の感染症はないが、川崎病の発生状況は感染症と類似しており、川崎病の発生に微生物が関与していることが疑われる」ことを明らかにした。年明けの 1 月に日赤医療センター講堂で開催された川崎病研究宇班会議で報告した後、柳川先生に連れられて、上野の駅前の焼き鳥屋（銀座の高級バー、でないところがミソ）でお酒をごちそうになった。その場で川崎先生が「中村先生は独身ですか」と尋ねられるので、「9 月に結婚する予定です。相手は先生の病院で産婆をしています。」と申し上げ、厚かましくも披露宴にご参加いただけるようお願いした。

1983 年 9 月 25 日、市ヶ谷にある弘済会館で結婚式を挙げた。主賓の挨拶で川崎先生は「自分のところに来る小児科医はみんな、お金のために医師になったというのに、中には金に縁のない（こんな貧相な式場で結婚式を挙げる）医師もいる」とおっしゃって、涙を流された。その後、大学の同級生が豪華なホテルや結婚式場で結婚式を挙げるたびに、「川崎先生の嫌いそうな会場だな」という声が出たのは、言うまでもない。重松先生との出会いもこの頃である。私が公衆衛生院に行く 2 年前に同院の疫学部長

から放射線影響研究所の理事長に移られていたので、講義を聴くことはできないと思っていたら、後任の簗輪眞澄先生が胃潰瘍で入院されたため、重松先生がピンチヒッターで講義を受け持たれた。重松先生曰く「簗輪が病気になってわしの講義が聴けて、君らはラッキーだ」、同級生曰く「田中角栄みたいな声だ」。教科書は今は絶版の講談社ブルーバックス「疫学とは何か」。後日、一般向けの入門書を書いた時に、このタイトルをパクらせていただいた。ちなみに、今本棚にあるものには家内の名前が書いてある。そう、家内は公衆衛生院の同級生で、それ以来の腐れ縁である。

1992年2月だったろうか、何かの会の後、銀座のバー（ここは上野の焼き鳥屋ではなく、銀座のバー、ただし、それほど高いところではない）で飲んでいる時に、柳川先生が重松先生に「中村君もそろそろ留学に」というと、少し考えた後に「テキサスに行け。あそこには〇〇やら、△△やら（あえて匿名にする）柄の悪いのを送ったので、中村君、君にぴったりだ」というので、5月から1年半、ヒューストンにあるテキサス大学ヒューストン校の公衆衛生学部に行かせて頂き、公衆衛生学修士（Master of Public Health）の学位を頂いてきた。

痛恨の極みが2点。私が大学にいる時に川崎先生を長崎県の対馬までお連れした。当時、対馬の病院に勤務していた私の同級生（披露宴の参加者の一人）が「川崎先生を対馬にお招きしたい」といったのがきっかけで実現させた。現地では「本物がこんなところまで来るのか」と懐疑的で、同級生は「世界的大先生を連れてきた」として鼻

高々。そのときに奥さんとお嬢さん（まだ幼児）も来られ、川崎先生と一緒に写真に収まった。残念ながら私の娘（3人もいるのに！）には川崎先生との写真はない。川崎先生からは「医学は厳しく、医療は暖かく」の色紙を頂戴した。「川崎病学第2版」で使わせていただいた（さすがに受領者の名前は消したが）。一方で、重松先生からは「上医」の色紙をいただくことができなかった。「上医医未病病」（上医は未だ病まざる病を医す）の上医である。私以外の弟子筋はすべて頂いたのに、私だけ...「不肖の弟子」を通り越して、「不逞の弟子」なので、仕方ないか。

現在、勤務する保健所の所長室の高いところに、川崎先生の色紙と、児玉和紀先生（放射線影響研究所理事、重松先生の最後の直弟子）が作ってくださった直筆「上医医未病病」の写真とを並べて飾っている。

（宇都宮市保健所 所長・特定非営利活動法人日本川崎病研究センター理事）

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

ニュースレターNo.52をお届けいたします。
ご意見ご感想をお寄せ下さい。

第46回日本川崎病学会・学術集会の

お知らせ

濱田洋通

2026年10月2日(金)、3日(土)の2日間、千葉市文化センターで第46回日本川崎病学会・学術集会を開催することになりました。今回の会頭を務めさせていただきます、千葉大学小児科の濱田洋通と申します。この学術集会は千葉駅の近く、昔からの歓楽街のそばで開催します。来られない方はハイブリッドでどうぞ。海外からの視聴も可能です。

この学術集会のテーマを「川崎富作生誕100年を越えて～オールジャパンで研究を繋ぐ～」としました。昭和元年生まれの川崎先生は2025年2月7日に生誕100年を迎えました。この会を次の100年の川崎病研究の展望を語り合う会にしたいと思います。会場は一カ所とし、皆で討論し、川崎病診療・研究の歴史が最も長く患者さんも多い日本だからこそできる活動を皆で模索する会にしたいと思います。開催半年後には国際川崎病シンポジウムが幕張で開催されます。世界に日本の研究ビジョンを示したい、その為の討論を期待しています。

研究発表を3階アートホール(メインホール)1会場で、ホールを出た所でポスター発表を行います。口演とポスターを行ったり来たりして最新の川崎病情報を得いただけるコンパクトな会にしています。

10月3日には診断・治療・遠隔期管理の初歩から最新知見まで学べる教育3セッション&心エコーハンズオンを計画しています。川崎病の最新情報をわかりやすく学びたい方はこちらを聴講してください。

10月3日午後3時30分から、市民公開講座を企画しました。千葉大学で長く川崎病の研究に携わってこられ、川崎富作先生の後輩でもある、寺井勝先生(現 聖マリアンナ医科大学特任教授)に「社会人として成長された川崎病冠動脈瘤の患者さんと長く向き合って」タイトルでお話いただきます。相談会も開催します。

多くの親の会の皆様の現地/ハイブリッド参加をお待ちしています。

(千葉大学大学院医学研究院小児病態学
千葉大学医学部附属病院小児科)



第46回 日本川崎病学会・学術集会
The 46th Annual Meeting of Japanese Society of Kawasaki Disease

**川崎富作生誕100年を越えて
～オールジャパンで研究を繋ぐ!～**
Beyond the Centennial of Tomisaku Kawasaki

2026年10月2～3日(金土)
主会場 千葉市文化センター & Zoom meeting
〒260-0813 千葉県千葉市中央区中央2丁目4-1
副会場 濱田 洋通 Hiromichi Hamada
千葉大学大学院医学研究院小児病態学 Chiba University

大会事務局
千葉大学大学院医学研究院小児病態学
〒260-8677 千葉県千葉市中央区友富1-8-1
TEL 043-226-2144

運営事務局
(有)トリプルアイ 第46回 日本川崎病学会学術集会事務局
jsk46@medical-events.jp

主なプログラム

- ・教育セミナー
- ・心エコーハンズオン
- ・市民公開講座 など

1会場で白熱した討論!



会場のご案内



千葉市文化センター



JR千葉駅繁華街に近く、
宿泊、飲食がコンパクト

大会事務局
千葉大学大学院医学研究院小児病態学
〒260-8670 千葉県千葉市中央区友富1-8-1
TEL 043-226-2144

運営事務局
第46回日本川崎病学会学術集会事務局
(有)トリプルアイ
jsk46@medical-events.jp

第 46 回日本川崎病学会・学術集会

市民公開講座について

光富健一

2026 年 10 月 2 日（金）・3 日（土）に、千葉市文化センターで第 46 回日本川崎病学会・学術集会が開催され、そのプログラムの一つとして、川崎病の子供をもつ親の会主催、第 46 回日本川崎病学会・学術集会、日本川崎病研究センター協力による、市民公開講座が予定されています。

市民公開講座の歴史を記述してみると、1981 年に第 1 回日本川崎病研究会が開催され、その翌年の 1982 年に親の会が、発足しました。1991 年に第 11 回日本川崎病研究会と親の会が共催して、初めて市民公開講座が、大阪で開催されました。その時の演者とテーマは、川崎富作先生「川崎病とその治療」、古庄巻史先生「病因をめぐって」、神谷哲郎先生「心血管障害」でした。

次に市民公開講座が開催されたのは、3 年後の 1994 年に和歌山で開催された、第 14 回日本川崎病研究会でした。その時の演者とテーマは、川崎富作先生「川崎病について」、上村茂先生「和歌山の川崎病の実態と心血管合併症」でした。

それ以降、毎年、日本川崎病研究会開催時に、市民公開講座は、開催され、2008 年に、日本川崎病研究会から、日本川崎病学会に名称が変更された後も、市民公開講座は、学会と親の会の共催で、あるいは両者の協力で、学会のプログラムの一部となって、継続されていました。しかし、日本での、新型コロナウイルス感染症の流行により、2020 年 4 月に、緊急事態宣言が発令され、外出自粛やマスク着用が義務化され、学会そのものがオンライン開催となり、市

民公開講座は、その翌年の 2021 年までの 2 年間、中断を余儀なくされました。

2022 年に、第 41 回目の学会が、埼玉県大宮市でハイブリッド開催されるのに伴い、市民公開講座も、再開されました。その時の演者とテーマは、松原知世先生「『川崎病って？』に答えます」、津田悦子先生「川崎病による後遺症とは」でした。

2024 年の東京での第 44 回学会の市民公開講座は、阿部正徳先生「川崎病と診断されたら-急性期における注意点-」、深澤隆治先生「川崎病と診断されたら-遠隔期における注意点-」でした。

2025 年第 45 回日本川崎病学会市民公開講座は、久留米市で開催され、演者とテーマは、古野憲司先生「川崎病の最近の動向と COVID-19 流行が教えてくれたこと」、須田憲治先生「川崎病の冠動脈瘤はその後どうなるのか」でした。私もこの市民公開講座に、現地で参加しました。川崎病に罹患した親たちは、我が子の行く末に不安を持ち、演者の先生方のご講演を一心に聞いておりました。演者の先生方も患者とその親たちの不安を解消しようと、多様な質疑に対して、的確な応答でお答えいただいております。私は市民公開講座の必要性を再確認し、親の会は先生方のお力をお借りして、川崎病の原因究明と後遺症のない治療法を目指して、共に歩んでいかなければならないと思いました。

さて、2026 年 10 月の第 46 回日本川崎病学会・学術集会は、千葉大学濱田洋通先生が会頭で、「川崎富作生誕 100 年を越えて～オールジャパンで研究を繋ぐ！～」をメインテーマとして、千葉市文化センターで開催されます。市民公開講座もプログラム

されており、演者とテーマは、寺井勝先生
「社会人として成長された川崎病冠動脈瘤
の患者さんと長く向き合って」となっており
ます。また、座長を、日本川崎病研究セ
ンターの土屋恵司先生にお引き受けいた
だいております。

私が代表をしている、川崎病の子供をもつ親の会千葉県連絡会は1989年3月に発足しました。その発会式の演者は、寺井勝先生でした。その後、幾度も、寺井先生は、千葉県親の会の講演会で、講演をしていただきました。感謝するばかりです。そして、私たちは、寺井勝先生のお力をお借りして、ここまで歩いてきました。

市民公開講座のために、ポスターを作成しました。川崎病は原因不明のまま、乳幼児を中心に発症し続けています。その原因は必ずあるはずであり、必ず、解明しなければなりません。それが川崎富作先生の願いでもあり、また、私たちの願いです。

2026年10月3日に、千葉市文化センターで開催される市民公開講座に、千葉県内の多数の川崎病に罹患した患者さんとその家族の皆様にお集まりいただきたく、このポスターを、心を込めて、千葉県内の主要病院の小児科に、ご送付いたしました。届いておりましたら、川崎病で苦しんでおられる患者様のため、病院内に掲示願います。ご協力願います。

また、この市民公開講座は、濱田洋通先生のご努力により、ハイブリッドで開催されますので、オンラインでの参加も呼びかけております。先生方のご協力、ご支援、よろしくお願い申し上げます。寺井先生、当日のご講演、どうか、よろしくお願い申し上げます。

(川崎病の子供をもつ親の会

千葉県連絡会代表)

第46回
日本川崎病・学術集会
市民公開講座
社会人として成長された
川崎病冠動脈瘤の患者さんと
長く向き合って

日時 2026年10月3日(土)
15:30 ~ 17:00

場所 千葉市文化センター
(JR総武線 千葉駅、京成電鉄 千葉中央駅より徒歩10分)

講師 寺井 勝 先生
(聖マリアンナ医科大学 小児科特任教授)

テーマ 社会人として成長された
川崎病冠動脈瘤の患者さんと長く向き合って

主催 川崎病の子供をもつ親の会
第46回 日本川崎病学会・学術集会
NPO川崎病研究センター ハイブリッド開催
お問い合わせ 川崎病の子供をもつ親の会 光富
TEL: 090-6302-8281

Japan Kawasaki Disease Research Center

「勉強会 2026」のお知らせ

日程：2027年1月16日(土)

会場：エッサム神田1号館

ハイブリッド形式で開催予定です。
ぜひご予定いただければ幸いです。

【センター日報】

2026 年 5 月 15 日 2026 年度第 1 回理事会開催 5:00pm～（於：エッサム神田） Zoom 会議
2026 年 5 月 15 日 2026 年度公募研究選考委員会開催 5:00pm～（於：エッサム神田） Zoom 会議

2026 年 6 月 6 日 2026 年度総会研究報告会開催（於：エッサム神田） 1:00pm Zoom ハイブリッド
各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に
当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。

2026 年 6 月 6 日 2026 年度第 2 回理事会 理事の互選により新理事長・新副理事長選出（再任）。

2027 年 3 月 5 日 2026 年度第 3 回理事会開催予定 5:00pm～（於：エッサム神田） Zoom 会議

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数】 2026 年 7 月末現在

[正会員：72 名、1 法人、2 任意団体]：[賛助会員：84 名、0 法人、0 任意団体]

【学会・研究会・国際シンポジウム】

- ★ 第 50 回近畿川崎病研究会 2026 年 3 月 7 日（土）13:00～ 於：グランフロント大阪
世話人：三谷義英先生（公益社団法人パブリックヘルスリサーチセンター）
- ★ 第 45 回東海川崎病研究会 2026 年 5 月 16 日（土）
代表世話人：犬飼幸子先生（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院小児科）
- ★ 第 45 回関東川崎病研究会 2026 年 6 月 20 日（土）於：日本赤十字看護大学広尾ホール
代表世話人：濱田洋通先生（千葉大学小児科）
- ★ 第 46 回日本川崎病学会 2026 年 10 月 2・3 日（金・土）予定 於：千葉市文化センター
会頭：濱田洋通先生（千葉大学小児科）
- ★ 第 15 回国際川崎病シンポジウム 2027 年 2 月 15～18 日（月～木） 於：幕張メッセ（千葉）
会頭：松原知代先生（獨協医科大学小児科） ・ 尾内善広先生（千葉大学公衆衛生学）
- ★ 「川崎病の子供をもつ親の会」 問い合わせ先：Tel：0467-55-5257

新会員募集にご協力ください！！

正会員 年会費 20,000 円

賛助会員 年会費 5,000 円

【川崎病に関するご相談】

専用アドレスを開設しました。<kdcentersoudan@gmail.com> 担当理事が、随時返信でお答えさせていただきます。電話・Fax によるご相談はご遠慮ください。

【川崎病急性期カードお申込み】

専用アドレスを開設しました。<kdcenterkdcad@gmail.com> 主治医の先生に記入して頂き、母子手帳などと共に保存して今後にお役立てください。

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 ALES 6 階
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124

特定非営利活動法人

日本川崎病研究センター

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 ALES 6 階

● Tel:03-5256-1121 ● Fax:03-5256-1124

